

# 大好き! 幾春別川

DAISUKII IKUSYUNBETSU RIVER

●発行所 ●発行日 ●発行部 ●編集 ●印刷 ●発行所 ●発行部 ●編集 ●印刷 ●発行所 ●発行部 ●編集 ●印刷

発行元: 幾春別川ニュース編集委員会  
編集委員長 嵯峨 義博

〒058-0007  
岩見沢市7条9丁目 石狩川開発建設部地質河川事務所内編集委員会事務局  
TEL: 0126-23-9555 FAX: 0126-25-1607



## 残された鳥たちの楽園 「宮島沼」

国内最北・最大級のマガンの寄留地



写真(上から): マガンの生態などを学んだ体験学習会(「宮島沼に学ぼう~マガンと田んぼ探検」)でエサの落穂拾いをする子どもたち、夜明け前に飛び立つマガン、上空から見た宮島沼

一両わすか2・7羽の宮島沼は春と秋、6万羽を越えるマガンでにぎわいます。マガンはシベリア東部で繁殖して短い夏を過ごしたあと秋風とともに南下し、9月末から10月下旬にかけて宮島沼で羽を休めます。そして越冬地の伊豆沼などでひと冬を過ごし、春の訪れと共に北上して再び宮島沼に飛来します。

エナルギーを蓄えたマガンは、時速100km/hのスピードでオホーツク海上をカムチャッカ半島まで飛び続け、営巣地のシベリアを目指します。4,000羽の長い渡りの旅です。

マガンの飛来数が増え続けている宮島沼は、2002年11月のラムサール条約締結国会議で稀に見る国際的に貴重な湿地として登録されました。この貴重な自然を次の世代に引き継いでいくと、市や市民組織「宮島沼の会」などが中心となり、保全と活用の取り組みを進めています。



## サケのふ化・飼育始まる 幾春別川をよくする市民の会

今年度もサケの発眼卵20,300粒が、恵庭の北海道立水産ふ化場から岩見沢にやって来ました。

発眼卵は12月9日に配布され、4月初めころまで保育園、幼稚園、小中学校、高校、事業所で飼育されます。

ふ化した稚魚には餌をやったり水を換えたり、水温に注意したりと、色々する事があります。特に水温は高くなり過ぎると稚魚が弱ってしまうので、気を付けなければなりません。稚魚を飼育している人達は里親の様な気持ちで世話をしているのでしょう。

沢山の人たちに見守られて放流される4月まで、稚魚は大切に育てられています。



写真提供: 札幌市豊平川さけ科学館

## 「美唄」

知っていますか?  
地名の由来

国道12号で美唄付近を通ると「美しき唄のまち・美唄」という案内板を見かけます。そのキャラクターは、ロマンを感ぜさせます。ところが地名の由来は「美しい唄」とは意味のつながりがなく、「アイ」と語の「ビバ・オ・イ」、「ビバ・イ」からきており、「カラス貝のいる所・多い所」という意味からきています。この地域には昔の河川や沼にたくさんのカラス目が生息しており、沼目村と称していた時代もありました。地域の特徴を児童にとらえたアイという地名の代表例の一つととらえる(又しな)。

(出典:「美唄市史」)





暖かい服装と、コンロや七厘などの暖房も持参して、防寒対策はしっかりと!

**のどかな農村の中で  
北村・雁里沼**

かつては石狩川の本流でしたが、たび重なる洪水を治めるため60年程前に河川改修をし、最大の三日月湖となり、現在は「雁里沼(かりさどぬま)」の名前で地元の人たちに愛されています。ワカサギの大きさは8センチほど、裏にはヘラブナも釣れる雁里沼は、プラントンなどの栄養が豊富な周辺に住む農業者

かつては石狩川の本流でしたが、たび重なる洪水を治めるため60年程前に河川改修をし、最大の三日月湖となり、現在は「雁里沼(かりさどぬま)」の名前で地元の人たちに愛されています。ワカサギの大きさは8センチほど、裏にはヘラブナも釣れる雁里沼は、プラントンなどの栄養が豊富な周辺に住む農業者



左の流れは石狩川、三日月湖は雁里沼

# チャレンジ! ワカサギ

手軽にできる冬のレジャーとして人気のあるワカサギ釣りの季節がやってきました。幾春別川やその周辺には初心者も楽しめるスポットがいくつかありますが、そのうちの2ヶ所をご紹介します。

## 桂沢湖 VS 雁里沼

**大自然の山の中で  
三笠市・桂沢湖**

「小さいぶん、沢湖にはいつつきが柔らかいですよ」と、釣り場を営業する桂沢観光ホテルの山川拓さん。桂沢湖のワカサギは3センチほど、やや小ぶり。私たちが釣ったワカサギは、1日に2千匹を釣ったことがあり、水の魔術師と呼ばれる管理人所と違って、よく晴れた日。水の厚さが1メートル、最も厚い時で1.5メートルになるため、ワカサギは湖面から3センチほど下までの深さのところを回遊しています。「うまく釣れるか不安」という時は、1日に2千匹を釣ったことがあり、水の魔術師と呼ばれる管理人所と違って、よく晴れた日。水の厚さが1メートル、最も厚い時で1.5メートルになるため、ワカサギは湖面から3センチほど下までの深さのところを回遊しています。

### ワカサギのお話



北海道の主な原産地は石狩川と網走湖です。主食はプラントンで、プラントンの豊富な汽水湖で天然ものが多くとれます。それ以外の場所では毎年春に稚魚を放流しています。産卵期は4月上旬~6月上旬で、1年で成魚になります。秋ごろになると群れて活動を始め、明るい時間は底近くで回遊し、早朝や夕方、曇りの日は浅い所で回遊するという特徴があります。

### Dr. リバーの何でも調査室

**Q** 川の近くには写真のような小さな沼がたくさんありますが、それらはどのようにして出来たのですか?  
**A** 川は、高いところから低いところへ、左右に蛇行しながら流れています。しかし川の水は、真っすぐに進もうとしますので、蛇行している外側に強い力が働き、どんどん削られて、さらに大きな蛇行になっていきます。そうした結果、洪水になると今まで蛇行した一部を残して川が真っすぐにつながったり、河川工事によって人工的につなげてしまうこともあるのです。こうして取り残された川が三日月のようにも見えたことから「三日月湖」と言います。石狩川はアイヌ語で「非常に曲がりくねった川」という意味がありますが、この名前の通り、石狩川の隅にはたくさんの三日月湖があります。







## 初めて見るサケの姿に歓声

サケの特別採捕が10月17日、幾春別川川向頭首工(現在、魚道工事中)で「幾春別川をよくする市民の会」の主催で行われました。

今年の秋は雨模様の日が多く、サケ遡上の観察キャンプでもほとんど魚影の確認ができなかったため、遡上しているかどうか心配されていました。しかし、当日はポカポカ陽気の天候となり、厚田の漁師さんの投網により数十分のうちに許可された10尾のサケが採捕されました。

参加者は、岩見沢市立第一小学校(高坂透校長、児童数416名)の3年生73名で、魚体測定を体験。子供たちはサケの運搬・体重測定・体長測定・うろこ採取の4班に分かれ、初めて見て触れるサケに驚き、「ウーッッ」などと歓声を上げていました。

子供たちにとって貴重な体験ができた1日になったようです。

## 光 こんなどころにも! ファイバー

高度情報化社会を目指し、国では情報を高速・大量に送ることのできる光ファイバー網の整備を全国で進めています。

幾春別川や石狩川でも、洪水時の河川状況の把握や平常時の河川監視を行うことを目的に、河川沿いに遠隔操作カメラの設置や画像配信のために光ファイバーネットワークの整備を行っています。

これから自治体にも配信される予定で、これにより災害時における防災情報体制の強化を図ることができます。

# 冬 雪に親しむ



複雑な模様をしているガラス窓についた“霜の花”。自然が造ったみごとな芸術作品!

『誰ったばかりの雪に飛び込んでフカフカした新雪の時代は雪に親しめる柔らかい感触を味わうのがポイント。楽しんだり、ガラース窓に付いた霜の花の美しさなどを観察してみてもいい。冬ならではの楽しみがあります。』

『雪対策は、寒い屋外で遊ぶ利雪の時代を経て、びをすることの効果として、窓口に北村役場建設課治水対策室まで。』

「雪遊びを地域に普及させたい」という方は電話0126・56・2001(連絡窓口・北村役場建設課治水対策室)まで。

## カンタン!



### スノーランタン

プラスチックのバケツの中央に一升瓶を置き、瓶の周りに雪をしっかりと詰める。そして瓶をゆっくりと抜く。バケツをひっくり返して雪の上に置き、静かに持ち上げる。真ん中に開いた穴にロウソクを入れて出来上がり!

### アイスクリームづくりゲーム



アイスクリームの材料を空き缶に入れ、さらに大きい容器に入れてから断熱材などで覆い、ボールに見立てて転がします。20分ほどで完成。

### 雪積みシーソーゲーム

雪を乗せる板は先端ほど細い。先端にたくさん雪を乗せたほうが勝ち。てこの原理や回転力などを応用した遊び。



### 秋田谷 英次さん (あきたや えいじ)



北村生まれ。元北海道大学低温科学研究所所長。現北雪学園大学教授。日本の雪崩研究の第一人者。

## 名産紹介

### 美唄 とりめし



口にきんだ時はこってりとしているのに、なぜかあと味はさっぱりとしている「なかむらのとりめし」。鶏肉の旨みが地産米の「ななつぼし」にぎゅっと染みこんでおり、深い味わいを堪能できます。

とりめしは、農村地域の中村で開拓のころから食べられてきた郷土料理。お客さんが訪ねてきた時や正月などの大事な日に、当時は貴重だった米と、つぶした地鶏をほとんど丸ごと一羽、しょう油で炊き込んで“おもてなし料理”として出していました。今でも各家庭ではそれぞれの味付けでおふくろの味

として食べられています。「百年連続郷土の味を守り伝えていこう」と平成10年、農家婦人たちが「郷土の味なかむらえぶろん倶楽部」を設立し、お弁当(420円)、おにぎり(2個入り250円)にして販売を始めました。Aコープの美唄全店は毎日、岩見沢店・峰延店は土曜日のみ販売。“できたての温かいとりめしを食べたい”というときは「釜」の宅配も。それ以外でも個数、距離によって、宅配もしています。問合せ先は「郷土の味なかむらえぶろん倶楽部」電話番号01266-9-2562まで。



# 川を愛する団体をご紹介 Part 4 山のない北村の輝き



カメラネッコンを使って雪中植林



カヌーづくり

北村は、海拔が最も高いところで14・5層、最も低いところで6・4層、その差わずか8・1層しかない石狩川流域の平野です。そのような地形ですから当然、山がありません。しかし、自然が豊かでないという点ではありません。畑に恵みをもたらす過去、石狩川は幾度も氾濫し、そのたびに畑などが水害に見舞われてきました。また、泥炭層の土壌が農業に不向きともされてきました。しかし、今では治水工事の整備や土地改良などにより、北海道でも有数の水稲生産地になりました。このように「ハンディキャップをバネに」して、多様な視点でまちづくりをすすめていくと、かえって、カヌーも自作しました。子ども達が大きくなったら胸を張って自慢できるように、もっとよきな北村になるよう一歩一歩奮闘に取り組みていきます。(会長 石黒武夫)



投網などを使って行われた旧美明川の河川調査

一昨年と昨年9月に行った旧美明川の河川調査では、豊かな自然がたくさん残っていることが確認されました。昨年1月の雪中植林では、住民が力を合わせて旧美明川沿いにある探検家の松浦武四郎宿泊地跡に、治水と美観のための植樹を行いました。また、地域になったのよきとを確保するための植樹を行いました。また、地域になったのよきとを確保するための植樹を行いました。

## 知っていますか? 緑の回廊づくり

“緑の回廊づくり事業”は自然豊かな生態系を生み出すことを目的に、平成6年に北海道開発局が中心となり、幾春別川をはじめとする道内の6河川において流域住民の協力を得ながら5ヵ年計画でスタート。国の事業としては平成10年で終了しましたが、その後も幾春別川流域の岩見沢市・三笠市・北村の地域住民と自治体が中心になって事業を継続し、イタヤカエデやマユミなどの植樹を毎年秋に行っています。

平成15年の秋、岩見沢市では80名が参加して6種160本を植え、平成6年からの合計で2万本近くに達しました。平成10年から開始した三笠市は45名が参加し11種200本を植えて合計で2千本近くに、同じく平成10年開始の北村は、52名が参加して8種119本を植えて合計で700本近くになりました。数年後、河畔にはわたしたちの心をうるおしてくれる美しい林が広がっていることでしょう。



### 注意! 油事故

寒い季節は灯油の取り扱いが増えるのと同時に、冬から春にかけて河川への油の流出事故も多発します。原因の多くは除雪や雪の重みによって灯油タンクの配管の抜け落ちや破損、またタンクの横転によって漏れた油が土壌や河川を汚染するものです。事故を未然に防ぐためには、口饅より灯油タンクの点検を心がける事が大切です。自然を育み、私たちの生活に無くてはならない川と住み良い街を守り、明るい春を迎えたいですね。

## 川の記憶「幾春別川と炭鉱」③

戦後、北海道を始めとする日本の炭鉱は麻痺状態になりました。政府は鉄鋼と石炭の増産を日本復興の大きな柱として位置づけて、傾斜生産方式を採用しました。生産量は回復に向かい再び炭鉱は活況の時期を迎えたのです。

戦後、北海道を始めとする日本の炭鉱は麻痺状態になりました。政府は鉄鋼と石炭の増産を日本復興の大きな柱として位置づけて、傾斜生産方式を採用しました。生産量は回復に向かい再び炭鉱は活況の時期を迎えたのです。

## 戦後の炭鉱の歩みと幾春別川



「歴史写真集 みかさ」より

そのため、黒く濁ったままです。それでも石炭を運ぶ人々は幾春別川のほとりまで濁みを見し、仕事の疲れをいやしていたと伝えられています。

## 行事予定(半年分)

- 第2回旧美明川雪中植林
  - ・開催予定日時: 2月14日 9:30
  - ・開催場所: 旧美明川左岸赤川排水機場跡
  - ・集合場所: 北村農村環境改善センター
  - ・主催: 第2回旧美明川雪中植林実行委員会
- 第2回北海道水辺の楽校サミット
  - ・開催予定日時: 3月28日 10:00
  - ・開催場所: 三笠水辺の楽校「てあひ」
  - ・集合場所: 三笠市立新幌内小学校
  - ・主催: 三笠の湖・川・緑を愛する会
- サケの稚魚放流
  - ・開催予定日: 4月中旬
  - ・開催予定場所: 西大橋下流左岸
  - ・主催: 幾春別川をよくする市民の会
- 幾春別川カップIn三笠〜カヌー競技
  - ・開催予定日: 6月中旬
  - ・開催予定場所: 三笠市西柱沢
  - ・主催: 三笠カヌークラブ
- フラワーライン<花の植栽・草取り>
  - ・開催予定日: 6月下旬
  - ・開催予定場所: 狩野橋付近
  - ・主催: 幾春別川をよくする市民の会
- 河川露揚月間・空き缶拾い
  - ・開催予定日: 7月上旬
  - ・開催予定場所: 旧美明川北岸橋下流左岸
  - ・主催: 北村の川を愛し・良くする会、北村ライオンズクラブ

## 感想お待ちしております!

本紙では楽しい紙面をつくるために読者みなさまからのご意見やご感想、または取り上げて欲しい話題などをお待ちしております。

【連絡先】財団法人北海道開発協会 事業調査部(札幌市北区北11条西2丁目セントラル札幌ビル)

質問の内容は、郵送かファックス(011-709-5227)でお願いします。